

平成 30 年度第 5 回安塚区地域協議会次第

日時：平成 30 年 7 月 24 日（火）

午後 7 時から

場所：安塚区総合事務所 3 階 301 会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 協 議

- (1) 自主的審議事項「地域活動における人員不足について」 資料 No. 1
- (2) 安塚区地域協議会としての審議内容について

4 報 告

- (1) 地域活動支援事業に係る課題等について 資料 No. 2

5 その他

- (1) 次回開催 平成 年 月 日（ ）午後 時 開会

6 閉 会

自主的審議事項「地域活動における人員不足について」

② 他団体との連携に関すること まとめ

①道普請等の共同作業

現 状

- ・道普請は各集落で行える。
- ・各集落で用水普請等対応が異なる。

継続するためには…

- 集落内での工夫
 - ・草刈などを体験ものにする。
- 集落間での取組
 - ・隣接集落との共同作業にする。
 - ・大きい集落が小さい集落に支援する。
- 他団体との取組
 - ・観光と併せて行う。
 - ・NPOに一任する。
 - ・地元企業の機械等を有効に活用する。
 - ・協力会社を集める。

②集落のまつりや行事

継続するためには…

- 集落内での工夫
 - ・区外にいる子ども達に参加してもらう。
 - ・積極的に参加する。
- 集落間の取組
 - ・町内会長・自治会長へ参加を依頼する。
 - ・集落間で祭りに行って来てもらう付き合いが必要。
- 他団体との取組
 - ・小・中学校にも祭りに参加してもらう。
 - ・大学生を招待する（上教大、看護大）。
 - ・集落の祭りに地元の企業や事業所等にも参加してもらう。
 - ・NPOの協力を得る。
 - ・民泊を含む宿泊施設と連携する。
 - ・音楽グループのミニコンサートを実施する。
 - ・その時だけではなく常に交流を持つ。
 - ・他団体と相互で協力する。
 - ・期日を変え相手先へ交互に出向く取組をする。
- その他
 - ・楽しめるイベントにする。
- 課題
 - ・歩行天まつりは商工会が中心であるが、区民は参加が少ない。

集落における

継続したい共同作業

③花木の植栽等の環境美化

継続するためには…

- 集落内での工夫
 - ・花の管理や苗代等を個人や自治会単位で負担する。
 - ・老友会や小学生と共同の取組とする。
- 他団体との取組
 - ・花の管理を老人会、花の会、自治会、NPO、青年会等と連携する。
 - ・福祉施設や学校との連携。
 - ・植栽、ゴミ拾い等を小・中学生と地域住民が一緒になって行う。
 - ・NPOから資金援助や散水等もっと協力してもらう。
- その他
 - ・花木の散水は、タンクやトラックで行い負担を減らす。
 - ・花の種類を統一し、苗を安価で購入できるようにする。
 - ・クラウドファンディングで財源を確保し、苗などを無償配付する。

④レクリエーション（運動会、旅行等）

継続するためには…

- 集落内での工夫
 - ・運動会や文化祭は各集落で小規模にできる範囲で実施する。
 - ・市のスポーツ大会や練習に参加し、活動をする。
- 集落間の取組
 - ・他集落と共同でレクリエーションを行う。
 - ・全集落参加を呼び掛ける（安塚区のスポーツ大会等）。
 - ・集落だけでなく町内会でレクリエーション、老友会で旅行を行う。
- 他団体との取組
 - ・学校と共催で実施する。
- その他
 - ・老人クラブが活発なところは、行事も多い。

地域活動支援事業に係る課題等について（集計後）

1 制度全般について

- ・全体的にはアウトラインが出来ている。
- ・地域により事情が異なる。各区一任でよい。
- ・連続年の支援について、限定してはどうか。
- ・地域にとって活動の幅を広げる大変良い制度だと思う。補助希望額が100万円を超えるような事業を計画する場合は、事前相談にて地域協議会の審査を行い、上越市の関係部署や機関と協議できる体制を作ることができないか。
- ・他地域の地域協議会委員の意見として、祭り（神事）の法被、自主防災設備について疑問を呈した方がおられた。当協議会も大半が採択されたが、地域活動支援事業として、制度全般の課題ではないかと思う。
- ・各区の配分額を今より多くすればよいと思う。
- ・市全体の基準として、防災用品の購入については、地域活動支援事業の対象外にしてはどうか。
- ・提案書の内容については、各団体で事業内容が異なるため、その都度地域協議会で検討していただき、指導してもらおう。
- ・良い制度だと思う。
- ・安塚採択でいいと思う。
- ・現状でよい。

2 安塚区の採択基本方針について

- ・同種の補助金額は年々減額すべき（自主努力を促すべき）。
- ・他の地域協議会では補助金額の上限や下限を設定してない所もあり、門徒を広げる意味で当区でも補助金額の制限を設けないでよいのではないか。
- ・助成回数は、提案団体が資金に困っていて、提案事業が広く市民に認めていただけるものであればこだわらないでよいと思う。
- ・補助対象事業については、市民が必要と思いき要望しているのであるから今まで通り『身近な地域での課題の解決や活力の向上』に合っていればよいと思う。
- ・安塚に生活している市民全員が安塚をよくしようと取り組みやすい使いやすい支援事業にしてもらいたい。
- ・なんらかの協議は必要かと思うが、具体的には難しい。時間をかけた協議が必要である。
- ・同じ提案、団体からの数年連続した提案について、ある程度制限してもいいのではないかと思う。
- ・採択方針については今までどおりでよいが、毎年同じ団体から申請があるものについては今後検討が必要である。
- ・現状でよい。

3 プレゼンテーション・採点・審査方法について

- ・プレゼンテーション後に意見交換をし、採点してはどうか。疑問点の解消等が図られ、採点がしやすくなるのではないか。
- ・質問の時間がもう少しあれば良い。
- ・個々の思いから採点に差が生じることがないように、採点者の平均を出す場合、各委員の最高点者と最低点者を除外し残りの10人で平均値として算出してはどうか。
- ・採点によって不合格になった場合に「議論しない」というのはどうかと思った。
- ・採点の前に議論をするか、不合格点であっても委員から「議論必要」との提案があれば、議論してもよいのではないか。
- ・採点については、各委員で考え方があり点数に違いがあるのは当然である。
- ・現状でよい。

4 その他全体に係る課題、改善点等

- ・基本審査・優先採択方針との適合性で適合しないにチェックを入れた場合、平均点を算出する際にその人数を0点として加算すると、平均点が15点以下になって門前払いとなってしまふから、平均点を算出する際の人数については、適合するにチェックを入れた人だけにすべきではないか。
- ・地域協議会＝地域活動支援事業が中心となっているようだ。負担が大きすぎないだろうか。
- ・提案事業実施後の検証のため、昨年同様視察が必要。
- ・提案書の提出締切日に時間まで明記すべきである。
- ・新規の団体が応募しやすい広報、支援（提案の方法、提案書の書き方等）が必要である。
- ・各団体が、自主的に事業を行おうとすることに感謝したい。申請までの準備や会議、集会こそが地域活性化の原点であると思う。
- ・その場で採択方針を変えるような発言はしてもらいたくない。